

# シネマズライフ

2012年7月6日発行 第19号

<http://p.booklog.jp/users/rion-takagi>

貴樹 諒音(たかぎ りおん)

## 映画の風景 日本の風景

### ★ 大阪 海遊館 ★

た優けてらとく大阪の唯一の水族館・海遊館に行  
り雅なける。生きよと魚達の姿が見  
る泳げない人。魚達は泳ぎを  
の泳げない魚達は泳ぎを  
だ泳げない魚達は泳ぎを

はう。魚達は死ぬまで動き続け休む事  
はほとんどないという。

はう。魚達は死ぬまで動き続け休む事  
はほとんどないという。

はう。魚達は死ぬまで動き続け休む事  
はほとんどないという。



夜景の美しい海遊館

守リンそ奇卵がてるま  
る...は、何があっても、お前の命は  
つと誓うのだった。『ニモ』。マー  
リンは、何があっても、お前の命は  
つと誓うのだった。『ニモ』。マー  
リンは、何があっても、お前の命は  
つと誓うのだった。『ニモ』。マー

オーストラリアのグレート・バ  
アリーフ・カクレクマノミのマー  
ンと妻のコーラルは、400個の卵も生  
まれ、もうすぐ孵化が始まると思  
ていた。矢先、卵を狙ってバラクー  
ダは、いなくなり、卵は残った。し  
かし、卵は残った。しかし、卵は残  
った。しかし、卵は残った。しかし、

『フラインディング・ニモ』という映画があった...こんな映画だ。

『フラインディング・ニモ』2003年 アメリカ 監督・脚本：アンドリュー・スタントン 脚本：ポプ・ピーターソン

声の吹き替えはマーリンを木梨泰武・難症症の持病があるドリーに室井滋が担当。のんびりしたマーリンと早口のドリーの掛け合いが楽しい。

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！



### 『ピアノ・レッスン』

ムービープラス

1993年 フランス ニュージーランド オーストラリア  
監督 脚本：ジェーン・カンピオン  
出演：ジ ホリー・ハンター ハーヴェイ・カイテル  
サム・ニール アンナ・パキン

7月14日(月) 8:00 7月23日(月) 8:15  
7月30日(月) 27:45 ⇒ 7月31日(火) 03:45

19世紀のニュージーランド。スコットランドから、入植者のスチュワートと結婚する為、口のきけないエイダが9才のフローラと大事なピアノを連れて海岸へ降り立った。しかし、スチュワートは迎えにこずその日は海岸のテントで寝ることに。

翌日、迎えに来たスチュワートは貧弱なエイダにがっかり、とりあえず荷物を運ぶが、ピアノは持っていけないと告げる。激しく抵抗するエイダだったが、彼は聞く耳を持たない。実は、口の聞けないエイダにとってピアノは自分の心を語る手段。ピアノを海岸に置いていくというのは身を切るような思いだった。そんな時、通訳を努めるペインズが、エイダに奇妙な提案をする...

エイダが常に弾く曲『**楽しみを希う心**』は今では映画音楽の定番。

映画の中の演奏がシーンはずべてホリー・ハンターが演奏、映画の感動を倍増させている。

### 『エド・ウッド』

ザ・シネマ

1994年 アメリカ  
監督：ティム・バートン  
出演：ジョニー・デップ マーティン・ランドー  
サラ・ジェシカ・パーカー バトリシア・アークエット

7月7日(土) 25:15 ⇒ 7月8日(日) 01:15  
7月12日(木) 27:15 ⇒ 7月13日(金) 03:15  
7月18日(水) 8:45

映画製作に命を燃やすエド・ウッド。ある日、往年の怪奇俳優・ベラ・ルゴシと遭遇。映画の出演を取り付け、念願の映画監督になる。映画の主演の女装男も彼が演じ『**グレンとグレンダ**』を完成させた。彼はこの映画を持って資金集めに奔走。なんとか新作を完成させるが、映画会社が題名を変えてプレミア試写会が行われる。が、評判は散々...だったがエドは大満足だった。早速、次回作を着手するが、いたって出来の悪い映画監督に出資する人間はいなかった。しかし、やっとスポンサーを見つけ新作に着手するもうまくいかない。そんな時に偶然にも彼は尊敬するオーソン・ウェルズに遭遇する...

映画を愛しながらも、映画を作る才能は皆無。そんな愛すべきエド・ウッドを、ジョニー・デップが演じます。

最後にオーソン・ウェルズが語る言葉は、映画を作る人々へのティム・バートンからのエールでもあるのだ。

☆【最近のこれはお見事！】は、見事な映画の題名の紹介します。【これは、まずいぞ！】は、これは、まずいぞ！と思ふ映画の題名を紹介しします。

☆ ネットでも読める「」誌です！主に映画の紹介とコラムです。よろしかったら、コメントで感想・お叱りお聞かせください。よろしく願います！

m.)m 貴樹 諒音

【最近のこれはまずいぞー】「こっぴどい猫」

前衛映画で製作・監督・脚本ルイス・ブニエルで脚本にサルバドル・ダリが参加した『アンダルシアの犬』は犬が出てこなかったが、この映画もそんな予感。さて、猫は出演なさるのか！

出演：ベン・ウィショー  
ダスティン・ホフマン

「パフューム～ある人殺しの物語～」

2006年 ドイツ・フランス  
スペイン  
監督：トム・ティクワ

十八世紀・パリ。セーヌ河沿岸に並ぶ悪臭が漂う魚市場でグルヌイユは生れた。だが、彼は生れながらの孤児だった。彼を産み落とした母は彼を棄てようとして絞首台に送られたからだ。育った孤児院でも、彼は友達もできなかつた。それは彼にはどんな匂いも嗅ぎ分けられるという特別な才能があったからだ。この才能の為友達もできず、誰からも愛されず、孤獨のまま大人になったグルヌイユだが、ある日偶然から、香水店を開く香水調合師バルディーニと出会った。彼の弟子となつた。特異な才能を開花した彼は大繁盛。実は、彼には「ある」夢を持っていて、し



今のセーヌ河は、美しくそしてやさしい。関わる人間たちの人生を狂わせていく…。

かしそれは、とても恐ろしい夢だった…。グルヌイユは、愛というものがどういふものかわからない。それは、彼が誰からも愛された事がないからだ。しかし、唯一理解のできる『匂い』から自分なりの人の愛し方を見つめる。それは、誰にも理解できないそして悲しい愛し方だった。そして、グルヌイユが作った甘い『匂い』は、彼に「関わる人間たちの人生を狂わせていく…」というあやふやな夢を、あるようでないような物語をエキセントリックな映像で描く。

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema

コラム 携帯をスマホに変えてみたら…

電車に乗っても道を歩いていても、スマホ（スマートフォン）を持ってるとあつという間に増えた感がある。携帯を持ってから、アドレスのドメインが何度かわり、度々変わるメールアドレスに戸惑いつつ十数年。auに変えると携帯代が安くなるという誘惑に負け、この度、携帯からスマホに変える事にしました。



au Xperia acro なのだ。

さて、始まったスマホ生活。まず難航したのが、アイコンの扱い方。指で触るので最初はなかなかアイコンが言うことをきかない。まあ、慣れると苦にはならないが、携帯でも入力に苦労している人は、やはりスマホに変えない方がいいかもしれない。イライラします。

月始め。早速auの店に訪れる。ついでだから番号も変えようと思いが、そうすると月々の支払いが乗り換えた時の支払いよりも二千円弱高くなる。これでは、毎月厳しいので、あきらめて乗り換え前のメーカーの店を訪れる。しかし、そのメーカーの名義が別の人間になっていて、乗り換え時は名義の人間が申請しなければならぬという。名義人はうちの旦那。仕事の為、夜にしか来れず大いに困る。そこで、電話で確

認可能という事で、店の人と旦那と電話してもらって、めでたく予約番号がゲット。こえてできないのだ。さて、始まったスマホ生活。まず難航したのが、アイコンの扱い方。指で触るので最初はなかなかアイコンが言うことをきかない。まあ、慣れると苦にはならないが、携帯でも入力に苦労している人は、やはりスマホに変えない方がいいかもしれない。イライラします。

※編集後記※  
☆ 昔から日本は、四季のはっきりした土地柄で、春夏秋冬の風景がきれいなのが自慢だった。どこかの家から聞こえてくる風鈴の音。ジュージューと鳴くセミの音。今では、聞く事は少ない。あるといえ、いきなり降り出す夕立だが、降り出すと長く止む気配もない。これも、温暖化の影響？ 風鈴はともかく、昔の『夏』を感じさせるものが少なくなつた。あえていうとクーラーの鈍いなり声だろうか。年々寂しい今日この頃なのだ。  
☆ 関西では、今日も晴れたり突然雨だったり、不安定な季節です。皆さま、体調にお気をつけください。

【最近のこれはお見事！】『ベティ・ブルー』愛と激情の日々

いろいろなパターンの題名があるが「〜の日々」のさきがけになった題名だったと思う。題名一つで映画の雰囲気表現している好題名。『激情』…ねえ…



